

活用事例⑧

島根県立出雲養護学校
倉橋 亜弥・山本 恵美子

■活動した学年：小学部1年～3年
(希望者)

■主障害名：知的障害

■各教科等名：図書館(読書)活動、
おはなし会

■学習形態：一斉視聴

■本の名前：

『コッケ モーモー!』(紙芝居風)

■対象となる児童・生徒の実態

毎月2回、昼休みを利用したおはなし会を実施し、楽しみにしている児童も多い。中・低学年の参加が多く、絵がはっきりしていて繰り返しのある絵本を好む傾向がある。そのため、今回は「わいわい文庫」から『コッケ モーモー!』(紙芝居風)を選び、この季節に合う『どんぐりころちゃん』(正高もとこ/鈴木出版)とともに、おはなし会で利用した。

■学習のねらい

- ・本を読んでもらう機会を通し、本を身近なものに感じ、読書の楽しさを味わう。
- ・さまざまな内容やジャンルの本に触れ、自分の思いを伝えるための表現力の基礎となる言語感覚を磨く。

- ・おはなし会という不特定多数が集まる場所に慣れ、一緒に楽しむことができる。

■使用した道具・機材

プロジェクター、パソコン

■実際の様子について

- ・おはなし会の予告チラシに今回取り上げる2冊を紹介し、当日は職員朝礼時に告知し、参加を促した。
- ・おはなし会で「わいわい文庫」を利用するのは初めてで、色彩豊かな『コッケ モーモー!』のページがスクリーンに大きく映しだされると、子どもたちはその迫力に興味津々の様子だった。今回は低学年の参加が多かったが、お話が始まると画面を注視して、お話に引き込まれている様子が伝わってきた。
- ・「大画面でみんなが楽しめた。読み手が代わったり抑揚のある語り口もあったりして、面白かった」など参加教員の感想もあり、今後のおはなし会での利用に手応えを感じることができた。

■本に対する情報提供など

- ・大きな画面に興味をもち、子どもたちが集まってきて、ふだんよりもおはなし会への参加が多かった。
- ・「わいわい文庫」には子どもたちが楽しめる絵本や昔話がたくさん収録されていることが分かった。
- ・また、『どれを食べたかな』など楽しい企画の読み物も収録されているので、今後はおはなし会だけでなく、いつでも一人読みできるタブレットの利用もすすめ、読書の楽しさを伝えていきたい。

